



「日本の防衛」第344
 回論文

オピニオンプラザ・私の正論 産経新聞
 佳作入賞 2003/7/1
 松本 J. アルベルト

国を防衛するという事は、脅威となる要素又はなりそう
 な紛争仮定に対して講ずる様々
 な措置からはじまる。単に今
 注目をあびている対北朝鮮へ
 の有事法制関連の整備及び防
 衛体制の見直し又は強化にと
 どまってはならない。

近隣諸国だけではなく、他の
 諸外国から観ても日本の「自
 衛隊」というのはりっぱな軍
 隊であり、「国軍」と言わね
 ばならない。また、自衛のみ
 に適用するという建前もあま

り説得力がない。自前の核兵
 器を持っていないということ
 を除けば、その他の武器や装
 備は自衛にも攻撃にも使える。

「撃たれてから撃つ、攻撃さ
 れてから反撃する」という実
 務的な規則を守っても実際の
 戦闘では敵を倒すまで又相手
 が降伏するまで並びに自分が
 戦えなく迄戦うのである。ま
 た、軍隊がある以上、最終的
 には祖国のために命を捧げる
 覚悟で戦う使命感を持っても
 らわねばならない。

こうした前提に基づいて有事
 関連法を考え、国民の財産と
 生命を守るという強いメッセ
 ージがなければ国民の不安も解
 消しないし、日本を敵視する
 また緊張関係にある国々も甘
 く見る。

ある「脅威」に対して必ずし
 も軍の増強が必要だとは限ら
 ないが、軍に相当するものが
 存在する以上、有事法制の整
 備は絶対条件であり、それら
 の脅威に対応するためにも又
 その脅威が攻撃にかわった時
 はスムーズに対応できるように、
 関係する要素やアクター
 を整備することは当たり前で
 ある。仮に軍隊というものを
 廃止して国境警備隊のような
 ものを設立した場合も同様で
 ある（コスタリカの例）。日
 本はこうした常識を怠ってきた
 のである。

ただ、国の防衛を考えると
 きに、単に軍事面を強調し過ぎ
 ると軍事大国である中国とロ
 シアをはじめ周辺諸国全体の
 軍事競争を助長してしまう恐

れがあり、拳げ句の果てに日本国内でも核保有の可能性に賛成の考えが浸透してきてしまう。日本の国民は、教育水準も生活水準も世界で類のないレベルを持っているが、国防に最も関係する主権意識、国家意

識、国際感覚、歴史認識は非常に貧弱で、同情論だけで行動し感情的になる傾向がある。主権問題等が絡んでくるとこの国でもある程度は感情論で動くが、日本の場合、歴史認識をはじめ、国際的な意識についてもあまりにもマイナスに偏り過ぎている。

筆者は、この日本に来て13年目になるが、日本の大学や大学院、社会でも国民の無防備さを実感してきた。学校等で実施されている「国際理解教育」や「平和を考える講座」など様々な試みがあるが、あまりにも理想論が多く、自虐的な歴史教育と控えめな発言は、今の外交や不安定要素が多い世界には逆効果である。自分のことをはっきり言えない国民は、外国に行ってもまともに受け入れられず、日本国内でも外国人との共存共生は無理である。これは日本語という言語の問題ではなく、相手に伝わるような表現の問題なのである。意思が伝わらなければ情報収集もできない。目的がはっきりしていなければどんな機密情報を入手しても価値を見出せない。防衛に直結するインテリジェンス機

関の活動にも限りが出る。

外交や国防という分野は諸外国との接触と、日本とは異なった環境での情報入手からはじまる。それなのに、今の教育は異国の人間や考えの異なった人間とのコミュニケーションにあまりにも不備があると考える。自分の考えやビジョンを述べられるようになれば、無駄な誤解が少なくなり、もっと信頼され頼られるようになる。中途半端な外国語教育より、きちんとした理論と根拠、歴史的背景を並べてまず日本語で述べられるようにマスターすべきである。

国防という観点から軍の活動は国民、そして国民から委任されている政府の意思表示であり、相手に理解されないとまったく意味がない。緊張が紛争、紛争が全面戦争になってからでは遅いのである。紛争の抑止力は、軍隊だけではなく様々な分野に及び国民の意思表示なのである。

日本の地理的条件や各種要件の長所と限界を考えると軍の増強が一番良い対抗策ではないが、現在保持している部隊や装備の有効活用(中には不必要なものもあるかも知れない)及び世界の常識にあったレベルまでに法整備することは当然といえる。例えば、紛争地域に派遣されて他の国の軍隊に「防衛」してもらわねばならない、又は、足手まといになるのでは行かない方がましである。

いずれにしても、まず自分の国を誇れるような教育が必要である。どの国にも歴史の中にはあまり誇れないものはあるが、日本のように未だに一部の教育関係者や父兄によって国旗や国歌でもめている又はこれらを否定する行動は理解に苦しむ。

コミュニケーション能力をアップすれば、外のことも分かるようになるが、自分のことも理解されるように表現しなければならない。結果的には、外交やビジネスでの交渉能力も強化され、日本の国防というのが間接的、直接的、そして多面的に活かされるのではないかと考える。

第344回 論文募集 「日本の防衛」

住所：〒223-0055

神奈川県横浜市港北区綱島上町
83-1-104

氏名：ファン アルベルト 松本

国籍：アルゼンチン 性別：男性
年齢：41歳

職業：会社経営(翻訳、通訳関係)

電話番号： 会社：045-544-0192

E-mail: jam@ideamatsu.com

URL <http://www.ideamatsu.com>